

## 刊行の辞

明治二二（一八八九）年一〇月四日、学祖山田顕義伯爵によって日本大学の原点である日本法律学校が創立されました。それ以来一三〇年の歳月を経て、令和元年（二〇一九）一〇月、日本大学法学部が創設一三〇周年という記念すべき年を迎えられましたことは、法学部教職員一同にとってこのうえない喜びであります。

今日、少子高齢化が進む中、一八歳人口の大幅な減少が予想され、また文部科学省による入学定員超過率及び定員充足率の引き下げとその管理の厳格化等により、本学のみならず私立大学を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。そのような状況の下、我々法学部の教職員一同は、法学部の長い歴史と伝統を誇りに、一丸となって教育、研究及び学部運営に取り組んでいかなければなりません。長い歴史と伝統に安住することなく、法学部をさらに発展させるために「社会において魅力ある学部」「社会の注目を集める学部」を目指して精一杯努力していかなければなりません。

一三〇周年記念事業としては、令和元年一〇月四日に大学本部が主催する日本大学創立一三〇周年記念式典・祝賀会が開催されます。また、法学部では創設一三〇周年を記念して政経研究所主催のシンポジウム、法学部校友会の後援による日本大学管弦楽団の特別演奏会、法学部所蔵のコレクションの展示会等が開催されます。

大学にとって学生の教育は最も重要な職務であります。教育と研究は一体のものであり、研究活動も教員にとって重要な職務の一つです。そこで、この記念すべき年に、法学部では創設一三〇周年記念事業の一環として、教育と並んで大学の大きな使命である研究に関して、法学部の機関誌である『日本法学』『政経研究』そして『桜文論叢』

を法学部創設一三〇周年記念号として刊行することにしました。法学部創設一二〇周年の際には、記念事業として特別な『日本大学法学部創設百二十周年記念論文集』全三巻を刊行しましたが、今回は『記念論文集』という特別なものではなく、学部にも所属する専任教員の研究水準を端的に表している法学部機関誌を記念号という形式で刊行することにより、私たちの日常的な研究活動の一端を公表することにしました。日本大学法学部は、他の同僚大学の法学部とは異なり、法律学科に加えて政治経済学科、新聞学科、経営法学科、公共政策学科の五学科を擁しており、この五学科で展開されている専門科目を担当する専任教員の研究領域は多種多様です。それに加えて総合科目・外国語科目を担当する充実したスタッフにも恵まれています。この法学部創設一三〇周年記念号には、様々な分野の研究者を擁している法学部の誇るべき特質が反映されていると言えます。

この一三〇周年記念号の企画から刊行に至るまで、必ずしも十分な時間が確保されていた訳ではありません。そのような中で、この記念号に多数の多角的な研究論文をお寄せいただきました。玉稿をお寄せいただいた先生方に対し心よりお礼を申し上げます。また、窮屈な日程の中で、予定された期日通りに刊行して下さった機関誌編集委員会の委員の皆様のご努力に心より感謝の意を表します。さらに、決して潤沢とは言えない財政状態の中で、機関誌編集委員会を支えてくれた事務局の皆さんにも厚くお礼を申し上げます。

この記念号は、法学部創設一三〇周年を慶賀するのに相応しい論文集となりました。この一三〇周年記念号に寄せられた論稿が、それぞれの学界に裨益することを祈念して、刊行の辞といたします。

日本大学法学部長 小田 司